

興亞院官制外七件第一回審査委員會

昭和十三年十一月二十九日(火曜日)本院事務
所ニ於テ開會

出席者

平沼 議長

審査委員長

原 副議長

審査委員

河合 顧問官

國務大臣

石井顧問官
 有馬顧問官
 石塚顧問官
 清水顧問官
 林顧問官
 南顧問官
 菅原顧問官
 米内海軍大臣
 近衛内閣總理大臣(中途退席)

説明員

池田大藏大臣
 板垣陸軍大臣
 八田拓務大臣
 有田外務大臣
 船田法制局長官
 樋貝法制局參事官
 森山法制局參事官
 澤田外務次官
 三谷外務省條約局長

米澤外務省調査部長
蜂谷外務省文化事業部長
影佐陸軍砲兵大佐
岡 海軍大佐
植場拓務省殖産局長

村上書記官長
堀江書記官
高辻書記官

(午後一時三十分開會)

原委員長開會ヲ宣ス

近衛内閣總理大臣ヨリ本案ノ大綱ニ付船田法制局長官ヨリ其ノ詳細ニ亘リ説明ヲ爲シ次テ有田外務大臣ヨリ對支方針ノ概要ニ付板垣陸軍大臣ヨリ支那現地ノ治安狀況ニ付夫々説明アリ

河合顧問官ヨリ對支機關特設ノ経緯興亞院ノ事務ヨリ外交ニ關スルモノヲ除キタル理由ニ付質問アリ有田外務大臣對支機關ノ特設ニ對

スル從來ノ外務當局ノ立場ヲ陳ベ現下ノ支那ニ於ケル情況ハ複雑多岐ニ亘リ之ガ處理ハ到底外務大臣ノミノ關與ヲ以テハ足ラズ別ニ一機關ヲ特設スルコトヲ要シ外務當局トノ關係ニ付テハ外務大臣ガ一面五相會議ニ參加シ他面該特設機關ノ副總裁ト爲ルコトニ由リ圓滿ヲ期セラレベキ旨答辯ス同顧問官ハ尚興亞院連絡部ノ機能ニ付質ス所アリ。石塚顧問官同様趣旨ノ質問ヲ爲シ船田法制局長官及板垣陸軍大臣ヨリ興亞院連絡部ハ興亞院ノ事務ヲ支那

ノ現地ニ於テ各方面ト連絡シテ處理スルコトヲ機能トシ從前特務機關ノ處理ニ來レル事務ハ軍本來ノ事務以外ノモノハ概ネ之ヲシテ處理セシムベキ旨ヲ答フ

石井顧問官ヨリ如何ナル事態ヲ以テ興亞院存續ノ終期タル支那事變終了ト認ムルカトノ質問アリ南顧問官同様趣旨ノ質問ヲ爲シ有田外務大臣ヨリ問題ノ重大性ニ鑑ミ後刻之ガ答辯ヲ爲ス旨ヲ述ブ

石井顧問官ハ更ニ興亞院ノ所掌事務ト之ヨリ

除外セラルル外交ニ關スル事務トノ區分ニ付
質疑アリ船田法制局長官及有田外務大臣ヨリ
支那ニ於ケル政務ハ大體ニ於テ總テ興亞院ニ
移リ其ノ純外交ニ關スルモノノミ依然外務大
臣ノ權限ニ屬スベク純外交トハ支那ニ關スル
諸外國トノ交渉及支那新政權ノ承認以後ノ同
國トノ交渉ヲ意味スル旨ヲ答ヘ外務大臣ハ興
亞院副總裁ニ充テラルルヲ以テ實際上ノ問題
ニ處シ圓滿ヲ期セラルベキ旨ヲ述ブ
石塚顧問官ヨリ内閣總理大臣ヲ以テ實行機關

ノ總裁ニ充ツルコトノ先例及輔弼ノ責任トノ
關係ニ付質問アリ船田法制局長官ヨリ明治二
十八年ノ臺灣事務局官制及大正七年ノ軍需局
官制ヲ以テ先例トシ輔弼ノ責任ハ總理大臣ト
シテ之ヲ負フ旨ヲ答辯ス
清水顧問官ハ政府ニ支那國ニ對スル宣戰布告
ヲ爲スノ意思ナキヤラ問ヒ有田外務大臣政府
ニ於テ考究ノ結果宣戰布告ハ我國ニ對シ利益
ヨリモ寧ロ不利益ヲ齎スコト多カルベキニ由
リ之ヲ爲サザル旨ヲ答フ同顧問官ハ尚興亞院

設置ノ理由ニ鑑ミ政府ニ於テ寧ロ國務大臣ノ
數ヲ減少スル等内閣制度改革ノ意思ヲ有スル
ヤ否ヤヲ質シ船田法制局長官重要事項ナルニ
付後日内閣總理大臣ヨリ説明アルベキ旨ヲ答
フ
南顧問官ハ政府ノ期待スル新政權トハ如何ナ
ルモノナルカヲ問ヒ有田外務大臣ハ北京南京
蒙疆廣東等ニ既ニ成立シ又ハ成立セントシツ
ツアル各政權ヲ取纏メ各其ノ特異性ヲ保チツ
ツ之ヲ統一セシメントノ考ナルモ具體的ニハ

其ノ時ノ情勢ニ應ズルヲ要スルガ故ニ今直ニ
斷言スルヲ得ザル旨ヲ述ブ同顧問官ハ尙支那
ノ歴史ヲ顧ミルニ同國統治ノ成否ハ一ニ懸ツ
テ中央統治者ノ如何ニ在リ擁立セラルベキ人
物ニ付テノ見込ヲ質シタルニ對シ有田外務大
臣統治者ノ擁立ハ支那ニ於ケル自ラノ方法ニ
俟チタク人物ノ見當ハ無キニ非ザルモ指名ハ
差控ヘタクキ旨ヲ答フ
次ニ菅原顧問官ハ興亞院官制ト外務省官制ト
ノ關係及興亞院官制第一條但書ノ意義ニ關シ

前記石井顧問官ト同様趣旨ノ質問ヲ爲シ船田
法制局長官ノ答辯アリ

原委員長ハ次回ヲ十二月一日(水曜日)午前十時
ヨリ開催スル旨ヲ述べ閉會ヲ宣ス

(午後四時五十分閉會)

機密傍

興亞院官制外七件第二回審査委員會

昭和十三年十二月一日(木曜日)本院事務
所ニ於テ開會

出席者

平沼 議長

審査委員長

原 副議長

審査委員

河合 顧問官

機密傍

補
密
際

石井顧問官

有馬顧問官

石塚顧問官

清水顧問官

林顧問官

南顧問官

菅原顧問官

國務大臣

近衛内閣總理大臣

池田大藏大臣
兼高工大臣

板垣陸軍大臣

八田拓務大臣

有田外務大臣

説明員

船田法制局長官

樋貝法制局參事官

森山法制局參事官

澤田外務次官

三谷外務省條約局長

米澤外務省調査部長

編
審
完

蜂谷外務省文化事業部長

影佐陸軍砲兵大佐

岡 海軍大佐

植場拓務省殖産局長

村上書記官長

堀江書記官

高辻書記官

(午前十時八分開會)

原委員長開會ヲ宣ス

菅原顧問官ヨリ支那ノ法幣ニ關スル我ガ對策
ヲ質問シ蔣政權ノ没落其ノ保有スル在外正貨
ノ減少ニモ拘ラズ其ノ價值ニ變動ナキ原因ヲ
問フ大藏大臣ハ蔣政權ノ衰退ニ應ジ健全ナル
發券銀行ヲ設立シテ法幣ニ代ル通貨ノ發行ヲ
必要トスベキモ事極メテ困難ニシテ目下ハ唯ダ
北支ニ付キテハ聯邦銀行ヲ設立シ中華民國臨
時政府ノ通貨ノ融通ニ資シツアルモ未ダ充
分ナル外貨ヲ保有スルニ至ラズ中支以南ニ付

テハ未ダ確タル成案ニ違セズ法幣ノ價值維持ニ付テハ其ノ原因明確ナラザルモ蔣介石ニ對シ國民ノ信用アルコト及法幣ノ濫發セラレ居ラザルコトハ其ノ一因ナルベキ旨ヲ答フ同顧問官ハ更ニ興亞院官制第一條但書ヲ削除スルコトニ付外務當局ノ意見ヲ問ヘルニ對シ有田外務大臣ハ支那ニ關スル諸外國トノ交渉及支那新政權ノ承認以後ノ同國トノ交渉等ハ之ヲ外務省ニ保留スルノ要アル爲但書ハ存置スルヲ必要トスル旨ヲ答フ

南顧問官ハ國民政府ト雖モ其ノ人的要素ト政策トヲ變改シ來ラバ之ヲ相手トスベキ旨ノ政府聲明ノ意義ヲ問ヒタルニ對シ有田外務大臣ハ既ニ右政府ヲ以テ蔣政權ト認メザルガ爲ナリトシ船田法制局長官ハ中央政府ヲ承認スルニ當リ蔣政權ニ參加ノ餘地ヲ示シタルモノニ他ナラザル旨附言ス
原委員長ハ興亞院設置以後新政權ノ成立前ニ於テ支那ニ於ケル外交機關ノ活動分野ヲ問ヒ有田外務大臣ハ臨時政府及維新政府トノ關係

ハナキモ支那ニ於テ生起スベキ問題ニ付各國ノ大公使ト接觸シテ現地ニ於テ之ガ解決ニ當ルベキ旨ヲ答フ

河合顧問官ハ外務省ト興亞院トノ權限上ノ限界ヲ明確ニスルノ要ヲ訊シ尚對滿事務局ヲ興亞院ニ合併スルノ意嚮ヲ問ヒタルニ對シ前者ニ付テハ有田外務大臣ヨリ其ノ懸念ナカルベキ旨ヲ答へ後者ニ付テハ近衛內閣總理大臣ヨリ目下ノ處其ノ意圖ナキ旨ヲ答フ

次テ近衛內閣總理大臣ハ前回ノ委員會ニ於テ

其ノ缺席中受ケタル質問ニ付石井南兩顧問官ニ對シテハ支那事變ハ強力ナル敵對行爲ガ略々消滅シ一般的ニ治安ガ回復シタリト認メラレ日滿支ノ提携見ルベキモノアルニ至レルトキヲ以テ實質的ニ終了シタルモノト認ムベク其ノ決定ニ付テハ認定ニ基キ勅裁ヲ請フベキ旨清水顧問官ニ對シテハ興亞院ノ總裁副總裁ハ國務大臣ヲ以テ之ニ充テタルモ其ノ所見ハ閣議ヲ拘束スルモノニ非ザルガ故ニ實質的ニ內閣制度ニ抵觸スルモノニ非ズ內閣制度ノ改革ニ付テ

八目下ノ處企圖シ居ラザル旨石井顧問官ニ對シテハ興亞院ニハ外務大臣ガ其ノ副總裁トシテ參與セル關係上外交ニ關スル事項ニ付他ト爭ラ生ズルコトハ實際上無カルベキモ假ニ主管爭ノ生ジタルトキハ内閣官制ノ定ムル所ニ由リ閣議ヲ以テ之ヲ決スベキ旨ヲ答辯ス

石塚顧問官ハ現地中心主義ノ可否ヲ論ジ。從前特務機關ノ所掌シ居リシ事務ヲ興亞院連絡部ニ移讓スベキ時期、分量ヲ尋ネ及興亞院ノ構成上興亞院副總裁タル四國務大臣ハ責任ヲ負ハ

ズ總理大臣獨リ責任ヲ負フニ至ルベキハ責任系統ヲ紊ル虞ナキニ非ザルコト竝ニ一般ニ政府ハ官制偏重ノ嫌アリ運用ノ妙味ヲ活カスベキコト等ニ付意見ヲ述べ政府ノ見解ヲ訊シタルニ對シ近衛内閣總理大臣ハ現地ニ重點ヲ置ク結果ハ動モスレバ其ノ正常ナル權限ヲ逸脱スルノ虞アリ之ガ統督上中央ニ大機關ヲ設置スルノ要アリ特務機關ノ所掌事務ハ漸ク追ヒ興亞院ニ移スベク興亞院ノ事務ハ從前概ネ五相會議ニ於テ連絡ヲ執リ來リタル沿革上四

國務大臣ヲ副總裁トシ事變ノ處理事項ハ政治
經濟文化ノ各般ニ亘リ複雑ヲ極ムル關係上之
ガ中心的處理機關ヲ必要トシタルモノニシテ
組織ト運用ト相俟ツテ始メテ全カルベキ旨ヲ
述ブ同顧問官ハ更ニ從前大藏省所管事務ニシ
テ興亞院ニ移ルベキ事項ヲ問ヒ池田大藏大臣
之ヲ説明ス

石井顧問官ハ興亞院設置ニ當リ外交一元ガ文
字通り實行セララル様政府ニ切望シ尚今後支
那ニ於ケル領事官事務ヲ問ヒタルニ對シ有田

外務大臣ハ在支臣民ノ保護取締ニ當ルベキ旨
ヲ答フ

原委員長休憩ヲ宣ス

(午後十二時四十五分ヨリ休憩)

(午後二時七分再開)

(近衛内閣總理大臣、池田大藏大臣兼商工
大臣ヲ除キ出席者午前ニ同シ)

原委員長再開ヲ宣ス

菅原顧問官ヨリ興亞院官制第一條中ノ字句ニ
關シ質問アリ樋貝法制局參事官之ニ答フ

河合顧問官ハ興亞院ノ各種職員ニ付質シ原委員長ハ之ニ參與ヲ置カザル理由ヲ尋ネタルニ對シ樋貝法制局參事官答辯シ參與ニ付キテハ之ニ代リ連絡委員會及興亞委員會ヲ置カントスル旨ヲ述ブ

石塚顧問官參照書類ノ説明及武官ヲ以テ充ツベキ職員ノ指示ヲ求メ夫々説明員之ニ答フ菅原顧問官ヨリ新政權承認ノ方針ヲ問ヒタルニ對シ有田外務大臣ハ新中央政權生誕シ一應ノ形態ヲ整ヘ基礎強固ト認メラルルニ至リタ

ルトキ之ヲ承認シ育成スル所存ナル旨ヲ答フ原委員長支那ニ於ケル鐵道建設黄河ノ治水ノ擔當機關ニ付問ヒ興亞院ニ配置セラルル技師中勅任僅ニ一人ヲ以テ足ルカヲ質シタルニ對シ影佐陸軍砲兵大佐ヨリ鐵道建設ハ將來設立スベキ鐵道會社之ニ當リ黄河ノ治水ハ興亞院ニ於テ之ヲ行フ旨樋貝法制局參事官ヨリ之ガ爲ニハ相當有力ナル技師ヲ必要トスベキモ興亞院ノ外郭團體タル技術聯盟ノ援助アルニ付興亞院ニハ其ノ中心トナルベキ者一名ヲ勅任

トスルヲ以テ足ルベキ旨ヲ答フ

河合顧問官ハ警備其ノ他ニ付區處ヲ行フベキ
最高指揮官ノ意義ヲ問ヒ影佐陸軍砲兵大佐各
連絡部ノ所管スル地區ノ最高指揮官ノ意ナル
旨ヲ答フ

清水顧問官ヨリ官制中ノ用語ノ法律的解釋其
ノ他ニ付質問アリ樋貝法制局參事官之ニ答フ
南顧問官ハ支那ニ於ケル戰鬪行為ヲ一應終結
レ治安維持ノ段階ニ入りタルモノトシテ現狀
ヨリ推量シタル所要ノ兵力量ヲ問ヒタルニ對

シ板垣陸軍大臣ハ現在ノ兵力ヲ急激ニ減ズル
コトハ不可能ナルベキモ二三割ノ兵力ヲ減ジ
八十萬位トスルヲ得ベキ旨ヲ答フ同顧問官ハ
更ニ官制中ノ用語其ノ他ニ付質問ヲ重ネ夫々
各説明員之ニ答フ

原委員長區處ノ意義ト責任ノ所在トヲ問ヒ樋
貝法制局參事官區處トハ隸屬セザル者ニ對ス
ル命令ノ意ニシテ之ガ實行ノ責任ハ興亞院ガ
之ヲ負フベキ旨ヲ答フ

原委員長ハ之ヲ以テ質問終了ト認メ國務大臣

及説明員ノ退席ヲ求ム

(國務大臣及説明員退席)

其ヨリ委員間ノ協議ニ入り各員ヨリ夫々意見
陳述ノ後本案ハ此ノ儘可決セラレ然ルベキ旨
全會一致ヲ以テ議決シ審査報告ノ作成ハ之ヲ
審査委員長ニ一任スルコトニ決ス
仍テ原委員長ハ閉會ヲ宣ス

(午後五時十五分閉會)

樞密院官制中改正ノ件審査委員會

昭和十三年十二月七日(水曜日)宮中東三ノ間
本院控室ニ於テ開會

出席者

平沼 議長

審査委員長

原 副議長

審査委員

金子 顧問官